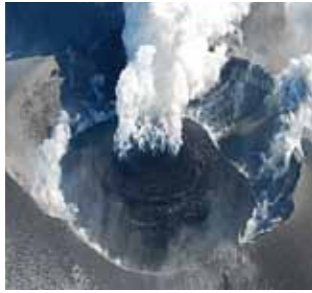


火山現象

[右ページマップの解説]

火口(形成)



地下のマグマや火山ガスに運ばれた岩塊等が噴出する穴であり、火口ができると想定される範囲を**第1次避難対象エリア**としています。
※このエリア以外にも火口ができる可能性があります。

火砕流



高温の火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって斜面を流下する現象であり、その流下速度は時速数十kmから百数十kmと高速で、生命の危険性が高い火山現象です。火砕流が到達すると考えられる範囲を**第2次避難対象エリア**としています

大きな噴石



爆発的な噴火によって風の影響を受けずに火口から弾道を描いて飛散する直径約50cm以上の大きな岩石をいいます。
第2次避難対象エリアが到達範囲とされています。

※「降灰」及び「融雪型火山泥流」(火山現象)編については、別途作成予定です。

溶岩流

火口から噴出した溶岩が重力によって地表を流下する現象で、溶岩の物性や噴出率等によって流れる速度や厚さは大きく変化します。溶岩流の速度は比較的遅く、段階的な避難が可能です。噴火開始後3時間以内に溶岩流が到達する可能性のある範囲は**第2次避難対象エリア**とし、噴火前に避難していただきます。

噴火開始後3時間から24時間で到達する可能性のある**第3次避難対象エリア**と、その範囲を超えた**第4次A避難対象エリア**・**第4次B避難対象エリア**については、溶岩流の流下状況に応じた範囲としています。

溶岩流は、より低い場所に向かうため尾根を越えて流れることは稀と考えられることから、富士山の山頂から延びる尾根のうち、比較的大きな17の尾根により、溶岩流の流下が想定される範囲を放射状に区分しました。

これを「ライン」とし、山頂から時計回りにライン1から17としました。

○ライン1～ライン10⇒静岡県

○ライン9～ライン17⇒山梨県

※ライン9とライン10は両県にまたがっています。



溶岩流等避難対策エリアの設定

[右ページマップの解説]

溶岩流等の影響想定範囲は、溶岩流の最終到達範囲とし、これを第1次避難対象エリアから第4次B避難対象エリアまでの5つの避難対象エリアに区分しました。

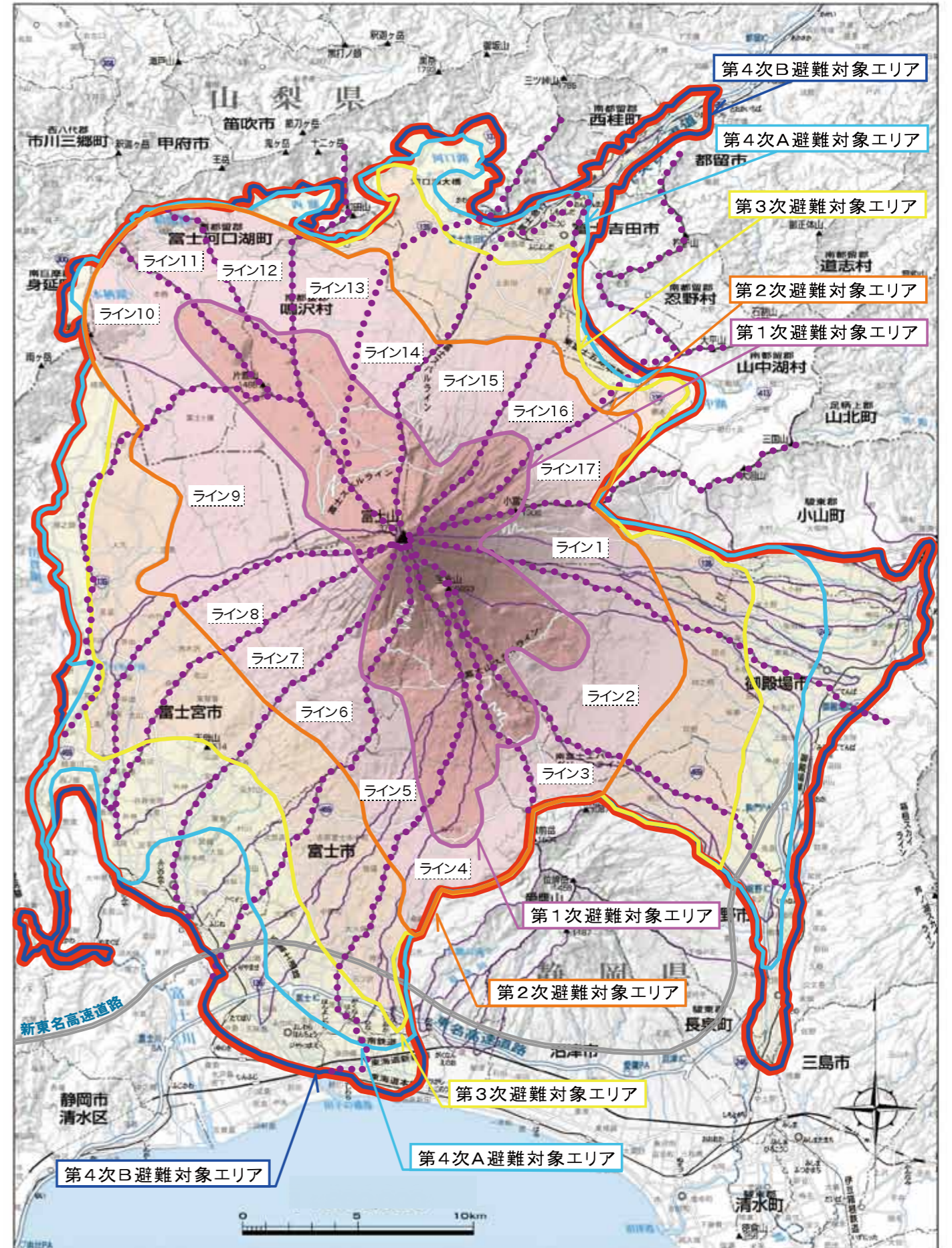
避難対象	説明
影響想定範囲	可能性マップの示す範囲(火口形成、火砕流、大きな噴石、溶岩流)
第1次避難対象エリア	想定火口範囲
第2次避難対象エリア	火砕流、大きな噴石、溶岩流(3時間以内)の到達範囲
第3次避難対象エリア	溶岩流(3時間-24時間)到達範囲
第4次A避難対象エリア	溶岩流(24時間-7日間)到達範囲
第4次B避難対象エリア	溶岩流(7日間-約40日間)到達範囲

溶岩流にかかる避難の基本的な考え方

噴火のおそれが生じた際、噴火するまでは火口の位置を予測するのは難しいため、全てのラインが避難対象となります。噴火後は、詳細な火口が不明の場合は、避難が必要なラインを避難対象とし、火口が特定されれば、その火口が存在するラインを避難対象とします。

例えば、ライン14の第1次避難対象エリアに火口が出現した場合、ライン14が主に避難対象となります。ただ、噴火の規模や火口の位置、噴火の仕方によっては、複数のラインが避難対象となる場合もありますので、地元市町村からの情報に注意してください。なお、避難先は、自治体からの避難勧告等に従ってください。避難は各自治会(町内会)等の単位で実施することになります。

溶岩流等の影響想定範囲と避難対象エリア



※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図及び数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。(承認番号 平25情使、第717号)